

## アンコンシャス・バイアスについて

□調査期間 令和4年10月11日～10月21日

□調査の趣旨

アンコンシャス・バイアスとは過去の経験や習慣、環境から生じる無意識のうちにとらわれている思い込みや偏ったものの見方のことです。このアンコンシャス・バイアスは、時に周りの人を傷つけたり、自分自身の行動を制限することがあります。また、誰もが自分らしく活躍できる男女共同参画社会の実現を妨げる要因の一つになっていると考えられています。そこで、家庭や職場における性別に基づくアンコンシャス・バイアスについてお聞きます。

□対象者数 1081人(令和4年10月12日現在)

□回答者数 770人

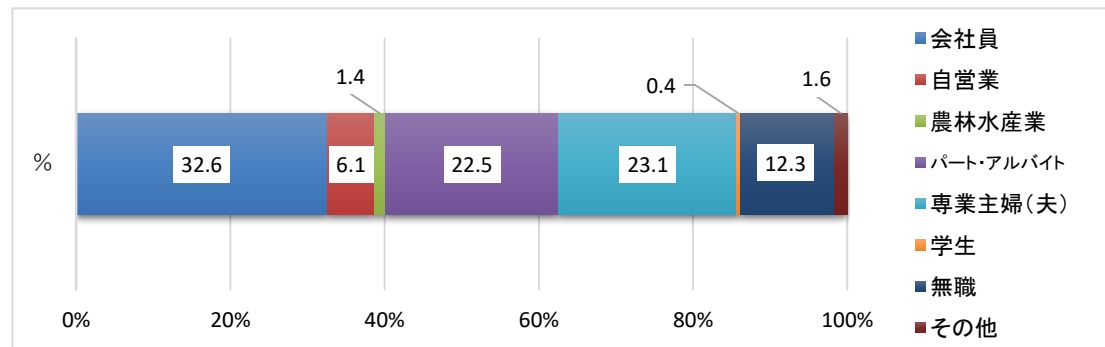
□回答率 71.2%

(図および表中の比率は、少数点第2位を四捨五入して表示しています。したがって、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。)

【Q1】まずは、モニター情報を教えてください。

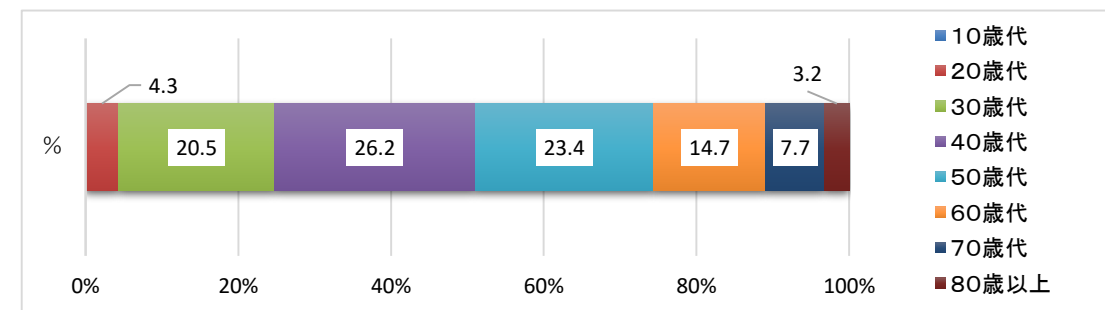
【職業】

内訳	人数	%
会社員	251	32.6
自営業	47	6.1
農林水産業	11	1.4
パート・アルバイト	173	22.5
専業主婦(夫)	178	23.1
学生	3	0.4
無職	95	12.3
その他	12	1.6
合計	770	100.0



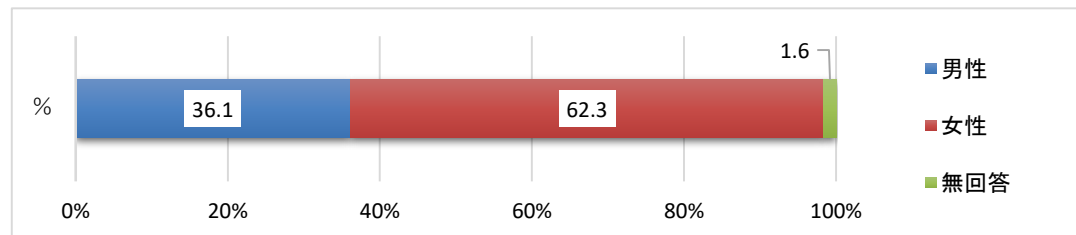
【年齢】

内訳	人数	%
10歳代	0	0.0
20歳代	33	4.3
30歳代	158	20.5
40歳代	202	26.2
50歳代	180	23.4
60歳代	113	14.7
70歳代	59	7.7
80歳以上	25	3.2
合計	770	100.0



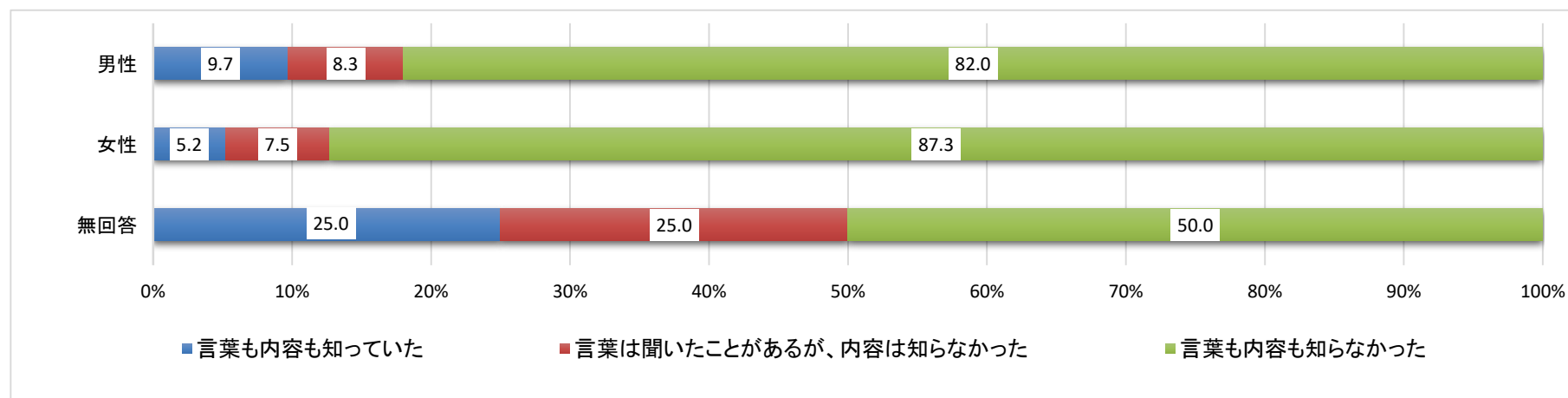
【性別】

内訳	人数	%
男性	278	36.1
女性	480	62.3
無回答	12	1.6
合計	770	100.0



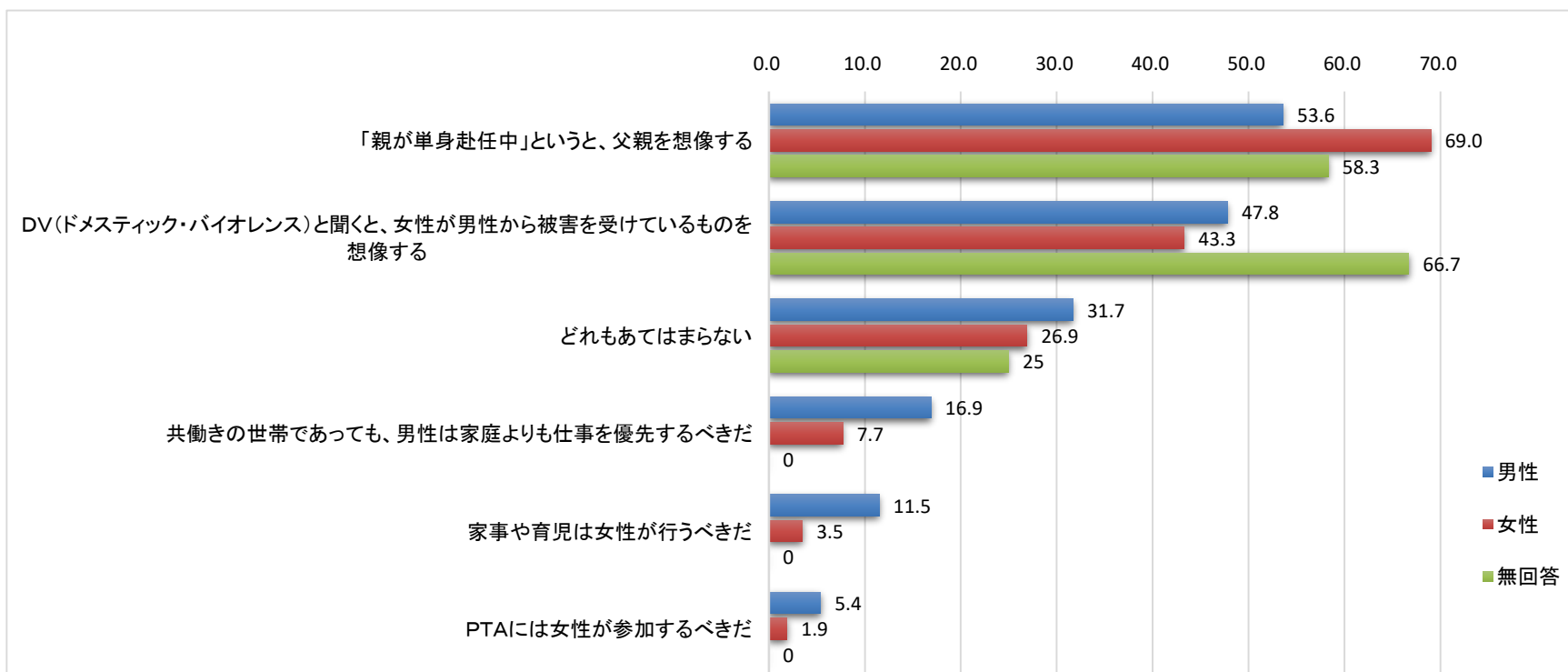
【Q2】アンコンシャス・バイアスという言葉を知っていましたか？(ひとつだけ選択)

内訳	男性		女性		無回答		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
言葉も内容も知っていた	27	9.7	25	5.2	3	25.0	55	7.1
言葉は聞いたことがあるが、内容は知らなかった	23	8.3	36	7.5	3	25.0	62	8.1
言葉も内容も知らなかった	228	82.0	419	87.3	6	50.0	653	84.8
合計	278	100.0	480	100.0	12	100.0	770	100.0



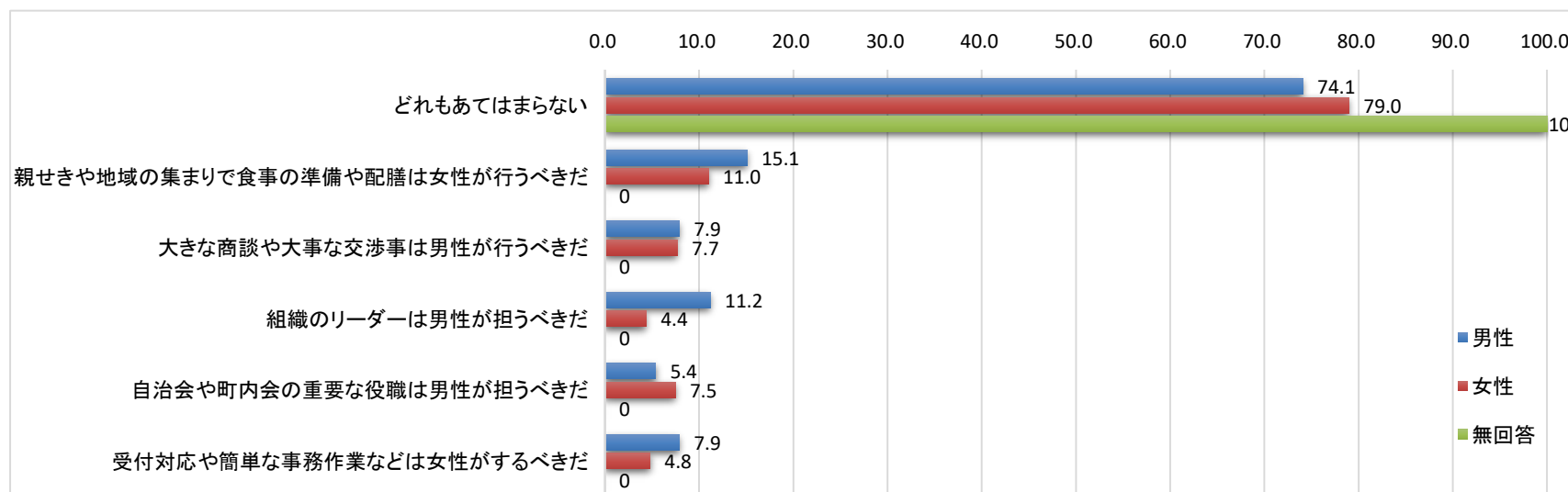
【Q3】家庭生活において、あなたご自身の現在の考え方や感じ方に近いものを回答してください。(あてはまるものすべて選択)

内訳	男性		女性		無回答		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
「親が単身赴任中」というと、父親を想像する	149	53.6	331	69.0	7	58.3	487	63.2
DV(ドメスティック・バイオレンス)と聞くと、女性もあてはまらない	133	47.8	208	43.3	8	66.7	349	45.3
共働きの世帯であっても、男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	88	31.7	129	26.9	3	25.0	220	28.6
家事や育児は女性が行うべきだ	47	16.9	37	7.7	0	0.0	84	10.9
PTAには女性が参加するべきだ	32	11.5	17	3.5	0	0.0	49	6.4
	15	5.4	9	1.9	0	0.0	24	3.1



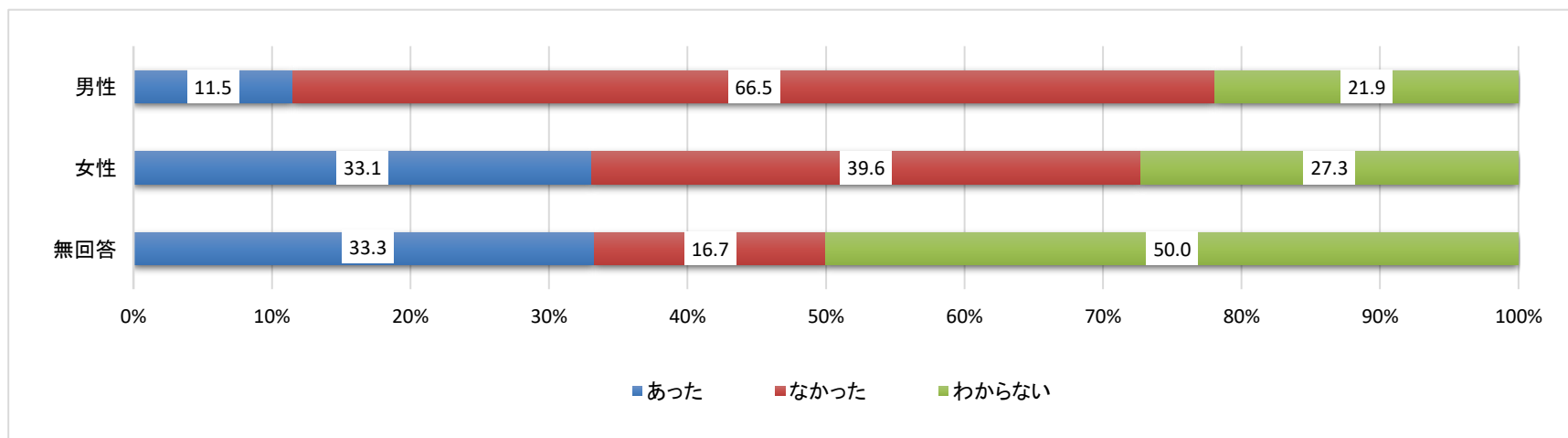
【Q4】職業生活や地域生活において、あなたご自身の現在の考え方や感じ方に近いものを回答してください。(あてはまるものすべて選択)

内訳	男性		女性		無回答		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
どれもあてはまらない	206	74.1	379	79.0	12	100	597	77.5
親せきや地域の集まりで食事の準備や配膳は女性が行うべきだ	42	15.1	53	11.0	0	0	95	12.3
大きな商談や大事な交渉事は男性が行うべきだ	22	7.9	37	7.7	0	0	59	7.7
組織のリーダーは男性が担うべきだ	31	11.2	21	4.4	0	0	52	6.8
自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ	15	5.4	36	7.5	0	0	51	6.6
受付対応や簡単な事務作業などは女性が	22	7.9	23	4.8	0	0	45	5.8



【Q5】これまで、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」、「男性は理系、女性は文系を選ぶべき」など「男性だから、女性だから」といった性別による固定的な先入観のために、自分の希望とは違う選択をせざるを得なかったことがありましたか？（ひとつだけ選択）

内訳	男性		女性		無回答		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
あった	32	11.5	159	33.1	4	33.3	195	25.3
なかった	185	66.5	190	39.6	2	16.7	377	49
わからない	61	21.9	131	27.3	6	50.0	198	25.7
合計	278	99.9	480	100	12	100	770	100.0



【Q6】Q5で「あった」と回答された方にお聞きます。それはどのような時にありましたか？差し障りなければその状況についてご記入ください。

- 夫に働きたいと言ったら収入に不満があるのかと言われた。
- 両親が共働きだった為、兄は遊び回っていたのに私が家事を担っていた。都会の大学に進学したかったが、女の子だから地元で就職しろと言われ断念した。
- 結婚したら、仕事をしてようとしてなかりと家事ご飯作りなど当然とされた。されたというより、されていた、もうそうだときまっていた。
- 法事や親族の集まり、祭り等での食事の準備など
- 進学で大学に行くという選択肢が無くなった。
- 出産後の育児は女性がして当然という環境にあり、退職せざるを得なかった。
- 高校を卒業して短大に進んだ時
- 寒い冬でも制服がスカートだった。ズボンを履けたら暖かいのと思って過ごした。
- 希望する業務において、上席は上の世代の方のため、どうしてもそれに従う必要があった。女性だから任せられないという意見も多くあった、
- 長男が実家を継ぐという田舎の風習
- 大学の進路を考えている時に、女性は学歴が重要ではないから短大で十分だと母から言われた。
- 人生の岐路で選択せざるを得なかったことはないが、社会の中で、男性に女は黙っとけ、女は口を挟むな、と言われ理不尽だと感じたことは多々ある。
- 結婚を機に仕事を辞めてしまった。

- 若い頃交際していた時、自分のやりたい事より彼氏や男性の仕事ややりたい事優先という暗黙のルールがあり、自分もそれが当然なんだと思い込んで様々ことを選択してしまっていた。
- 家は長男が継ぐので、女は早く嫁に行き行って家から出ていきなさい。嫁にやったのだから、家には戻って来てはならない。と言われ続けました。
- 結婚する時に、姓を変えなければいけなかったこと。
- 結婚当初、夫婦共働きで妻の私が夫に比べて帰宅が1時間早いので、晩御飯と乾いた洗濯物を置く家事を出来る範囲でするし、夫も帰宅したら洗濯物するから残してていいよ。と夫婦で話し合っていました。実際、夫は『手伝うよ』といつも声をかけてきました。そもそも、私が料理、洗濯する担当って決めてないのに手伝うっておかしなことを言うなど。きっと、女が家事をするという思い込みですね！休みの日は平日できない掃除なども私がやっている間、夫は外出前には私に、帰ってくるまでには家事済ませといってくれたらいいからゆっくりしなよと言った事が多かったですし、たとえ体調崩していると言っても同じ事を言われることが多かったです。家事は女がすると思ってるのかと聞いたら、そんな風には思っていないけど、実際家事負担は妻の方が多し、妻のように気がつかない。そう言われた時に、私自身、女だから主人をたてないといけないと考えて家事など家の事は自分がやらないとと頑張り過ぎて疲れていた事、何もしないのに一言二言三言まで多い夫に凄く苛立っていた事に気が付きました。
- 子どもが一歳未満のときに病気になり妻の私が仕事をやめた。
- 私がひとりっ子だったので、両親が家を守る男の人が必要だと言い、夫に養子に入ってもらった。
- 出産後、仕事をやめ、子育てをした。
- 就職の際、合同企業説明会である企業のブースに並んでいたら「男性の方のみ前に来てください」と言われ、女性は後ろに回された。
- 男は強くあるべきという概念で多少の無理をしたと思う。
- 父から、「女性はバタバタ遊びまわるのは、絶対ダメ。家にいてしっかり家を守りなさい」と言って育てられました。
- 私達の年代は、幼少時より、両親はじめ学校の先生も親戚等世間一般から男女差別が当たり前だった。20年前、私の長女が東京大学に現役合格した時、親戚から「おめでとう」より先に、「もったいないなー」(長男でなかったから)と言われた。
- 自分の家では、自分が働き家内は、家事全般を任せてと、分担していた
- 男性だから全てにおいて責任を持ちなさい、と言われたことがある。
- 女性は自宅から通学できる大学に行くように。
- 自分の親がいつも言っていた。ホントに嫌な気持ちだった。
- 仕事の面において前の職場で結婚が決まったのでという話をしたら、役職を下されました！女性は家庭を優先すべき？てきな？
- 社会人になって6年目。スキルアップを求めて大学進学するか、当時交際中の方と結婚するかを悩んだとき。交際中の方の含め周りのほとんどが大学進学に反対した。これ以上仕事や勉強しても無駄というようなことを言われた。
- 出産や結婚をきっかけに退職せざる得ない状況になった。
- 主人は育児も家事も手伝わず、正職員で勤務したいと思いましたが、家事育児の都合でパート勤務です。
- 結婚により仕事を辞めざるをえなかった事
- 進学の際、親に反対され県外に出られなかった。
- 両親からは性別での差別的なことは一切受けませんでした。が、地域や社会の生活では多々ありました。「女なら短大でいい」「女は子どもを産むからお金を稼ぐ責任感から逃れられていい」「女は愛嬌があればそれでいい」「女が野球クラブに入るのはおかし」「男をうまく転がすのが良い女」「女は文句を言わず我慢するべき」等の男女間わない相手からの悪気のない差別発言です。こんなことを言われていても私の周りの人々は世の中を男女平等だと思っています。
- 職場で男だから(体力があるから)という理由で重労働を強いられる場面があった。女性でもスポーツをしていたら体力がある。
- 結婚するときどちらの名字にするかという話が少しも出なかった。
- 子供が乳児の時全然協力できなかった。
- 子供が小さい時は母親ははたらかないということ。
- 体を動かす仕事が好きだが、女性だから力が弱いだろう、不安で任せられないと言って、作業をさせて貰えなかった
- 結婚して3年後に和歌山に来て夫の両親と同居、嫁は家にいて家事育児をするものだという考え方に抗えませんでした。30年前のことですが。
- 大学進学時、建築関係の学部を希望したが、当時はほとんどが男子で進む勇気がなかった。

- 仕事の上で
- 女だから大学進学の際の許可がおりなかった。
- そうしたかったわけではないが、妊娠出産を経ることにより思うように身動き取れないため諦めたことは色々あった。
- 結婚するときに仕事を辞めた。子どもが欲しかったらそれが当然で、共働きは茨の道だと思っていた。娘には絶対辞めたらダメと伝えたい。
- お茶汲み
- 結婚後、子育てをしないといけなくなったとき、仕事を辞めざるを得なかった。
- 生活力が違うから
- 陸上部に入りたかったけれど、親の反対により家庭部に入るようになった。弟は陸上部に入ることになり、そのとき親は乗り気で喜んでた。
- 高校進学時の進路選択、就職先の上司の言葉、結婚に対する親の考え方など小さいころから当たり前のように教育(洗脳)されていたように思う。
- 妊娠を機に周囲(家族・職場)から退職を強く促され、継続して就労できなかった。
- 女の子は短大という選択
- そういう風習、時代に育った。
- 詳しく言えませんが、言われたことがあります。
- 小さい頃に両親から、女の子なんだから、職歴とかは要らないから、高学歴も要らないと言われて、行きたい学校にも行かせてもらえなかった。
- 育児休暇の取得の在り方
- 出産を機に退職育児のためやめざるを得なかった
- 些細な事でももしかしたら主旨とはちがうかもしれませんが、配送会社でアルバイトをしていた時、私自身力には少し自信があり重い荷物を持つことは平気だったので、女の子は重いもの持たなくていいよと、重い荷物を持つ時かわりにやってくれたりしていました。優しさはとてありがたいですが、しっかり動きたいのにと何度も思いました。
- 結婚当初は共働きでしたが夫の仕事が多忙すぎてそれを支えるため仕事を辞めた。
- 4年制大学に進学したかったのに、父親から「短大なら良いが、女が小賢しくなると婚期が遅れる」と反対され、短大しか選べなかった。就職後に放送大学の3年次編入をし、さらに後年、自分の稼ぎで国立大の修士課程を出て、家父長思考しかできない父親に仕返しして痛快だった。初めて就職した経済団体。団体のトップが女性の会会員に向けたスピーチで、「女性ならではの細やかさで地域を盛り上げてください。」毎年毎年、このフレーズだった。一方の男性会員に向けた挨拶では「男性ならではの細やかさで地域経済を盛り立てて」とは一度も聞いたことはなかった。
- 就職した会社は新卒時点で男女で給与の差が付けられており、お茶くみや掃除は女性がさせられていた。結婚すれば退職を迫られた(「結婚したんやからさっさと辞めろや」と怒鳴られた)
- 育児
- 夫の転勤のために私が仕事をやめた。
- 妊娠を期に正社員からパートになり、保育園に預けて働いても、体調不良になれば母親が迎えに行き、休まなければいけない場合は母親が100%都合をつけてきたこと。
- 結婚するときに仕事を辞めるのが通常でした。寿退社という言葉が有りました。
- 出産後
- 大学受験に失敗し、浪人したかったが、両親が女性として年齢がかさむと、許してくれなかった
- 言っても男尊女卑の文化は有るから
- あらゆる場所、人に、よく言われました。「女性だから」。若い男性もそのような考え方の人も案外います。
- 仕事の場面で来客が来ても男性陣は動かない、見て見ぬふりをしている。だから女性が対応する。会社の制服も女性はスカート、男性はスーツなど特に和歌山に来てから男尊女卑的なのをよく感じます。
- 結婚の際に退職して和歌山に来た。
- 研究職に就いていたため、出産後は出張や残業など仕事復帰が厳しかった。
- 希望していた職種に女性というだけで採用試験を受けさせてもらえなかった

- 三人兄弟の長女だったが、女だから大学へは行かなくていい、長男次男のために学費をかけるというのが親の方針だった。
- 結婚して子どもが生まれて産休明けに、夫が転勤になって、私が仕事を辞めてついていった。夫には転勤を断る、会社を辞めて再就職という選択肢はなかった。
- 両親が死亡したとき長男だからということでいろいろとよわされたことがある。
- 自分の能力を発揮した職務に就きたかったが、企業側・担当者と意見があわない。また、家族の中でも舅・姑から小言をいわれたりなかなか不自由な環境にあった。
- 両親の考え
- 「女性だから電話に出て」と云われたりは当たり前でした。
- あとウチの実家が特殊なのかも知れませんが、父が学校行事に出て来てくれたことは1度も無かったです。淋しかったですね。
- 進学の際 自分の意志を通せなかった。
- 正社員で働きたかったが、小さな子供がいるとパートタイマーしか職がない。
- どうしても男性のパワーと外受けで、仕事を判断していたような気がする。
- 大学進学の際、家から通える範囲という制限があった。
- 子育てに関して主人は、全く参加しませんでした。子育ては女、仕事は男。だから私が復職したいと思ってもらえないませんでした。
- パートで働く際、扶養家族の範囲内での勤務形態を選ぶ様に言われた。
- 家庭のことは妻に任せて和歌山県外で単身赴任でサラリーマン生活を送った。コロナのおかげでリモート業務が増えて行き、結果和歌山に戻れ、今年退職に至った。
- 女の子は大学に行かなくてもいいと親に言われた。
- 女の子だから早く家に帰ってくるよう言われた。兄は男の子なので門限なし。
- 法事などのときに供え物、お茶やお菓子を段取りしたりするのは女の子の人がするものだと言われているから苦手であってもしなければいけないような雰囲気。
- 出産・育児のために仕事を退職
- 子供が生まれたときであっても仕事優先にならざるを得ないとき。男性はプライベートに関係なく仕事中心であるべきだという風潮は強い。
- 妊娠と同時に退職をして、子育てに専念した。
- 結婚で好きな仕事を辞めなければいけなかったこと。
- 仕事を探しているとき、結婚して子供がいる親と同居していると言うと、採用されなかったり、冠婚葬祭のとき、女性はビールをつぐという習慣が嫌いだった。
- 職場結婚したときに、自然と女である自分が退職する流れになって、そうだった。
- 美容師になりたかったのに、旦那が髪結いの亭主になるからと反対されて美容の学校に行かせてもらえなかった。
- 進路選択時、長女で跡継ぎだから家を出てはいけぬ。など
- 進学の際、女の子だからと自分で選ぶ幅を狭くしていたように思う。
- 結婚による退職
- 大学に行きたいと思ったとき我が家ではまだ女が大学に行くこと嫁に行き遅れると言われ、何とか短大に行ったが家政科しか行かせてもらえなかった。
- 女性は、家庭に入るのが幸せだと教育された。
- 女性だから遠隔地への就職を反対する。(親元の近くでおることを強制する。)
- 「女は家の中で守られているのが幸せ。外で働かざるをえない女性はいかぬ存在」。そんな価値観の母親に育てられたため、専業主婦以外の人生を考えるのは難しかった。長く勤められる会社を探すと、手に職をつけるという発想をすること自体許されなかった。なぜなら、自分は「かわいそうな女性」になってはいけなかったから。
- 男性は転職のため、家族と引っ越しできるが、女性は引っ越しを伴う転職はできない。
- 結婚したら、女性が男性の籍に入ること、女性は結婚したら仕事を辞めなければいけない、など。
- 進学の際は、女の子は4年生大学に行くこと就職も結婚も難しくなる。理系は特に。自宅から通える範囲で。
- 就職後は、男性は研修だけで1年経過後は自動的に主任になるが、女性は担当業務をこなしながら外部の試験を3年以上かけて取得後副主任になった。女性は役職の人が退職しないと役職の定員オーバーのため昇進できない。
- などきりが無い。
- 結婚後、男性の姓を名乗る事。

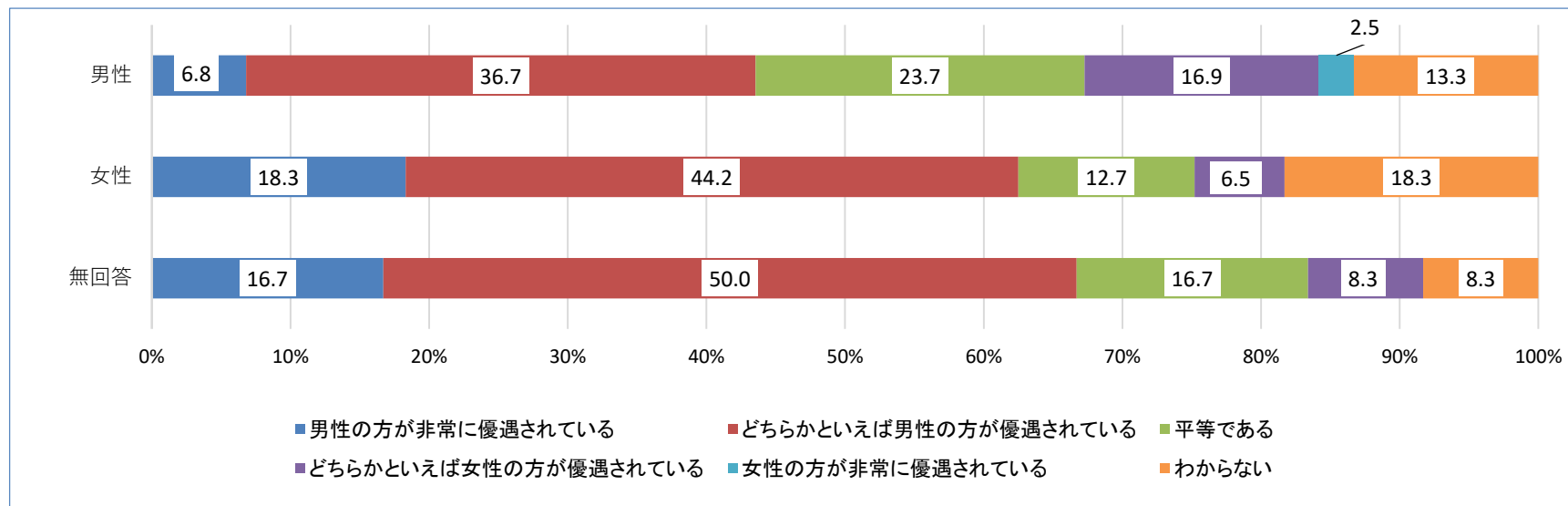


- 大学へ進学をしたかったが、女に学歴は不要、早く結婚・出産する方が女にとって幸せだと親に言われ短大しか行かせてもらえなかった。婚期が遅れるという理由で短大進学を強制された。
- 親から女性だからという理由で弟や兄が優先され、学歴もいらないと言われたことがある。
- 女だからと、スポーツの練習強度や深度を下げられた。「お前が男だったらなあ」は聞き飽きた。
- 力作業等があれば、すぐに男だからと言い、作業をさせられた。
- 他府県から和歌山市へ転入して度々感じる。特に高齢者から圧力を受ける。
- 上司が男性の同僚に対して高給取りの君の仕事ではない。と言って、女性の私にこれやっという！と煩雑な事務作業を押し付けてきたなどなどたくさんあります。
- 古い考えの親世代に新しい考えを理解して貰う努力をするより、地域や親戚の集まりでは古い考えの行動をとっておいの方が、楽だから。新しい考えをもってしたら先方から変えてくださると思うため。
- 就職
- 会社の飲み会でお酌をさせられた。
- 結婚して配偶者の両親と同居した時に、親の考え方に合わせて生活をしていた。
- 私が幼く育ってきた環境は、男性中心でした。祖父も父もそうでした。しかし、その後の環境は変化し、女性が強くなっていったように思います。生まれながらの育った環境からの脱却は難しく軋轢はあったものの、時代の流れには逆らえず、現在は、時代に沿った生き方に変化せざる得ないと考えを変えつつあります。
- 婚姻期間中
- 大学進学時に理系に進めなかったことと、女性は早く結婚して子供を産むべきという親の理念に従い、職業も自分で選べなかったこと。
- 大学進学の際。
- 義母から言われた。ゴミ収集日のゴミ出しは女がするべき。他にも色々
- 共働きののに、時短勤務を選択するのは母親、子どもの通院は母親、と子どもに関する役割を担わざるを得なくなっていた。
- 就職活動で男性は自分の出身大学で金融機関の総合職を受けていたが、女性はもっとレベルの高い大学でないと無理だった。
- 親に女の子だから夜にあまり飲みに出かけたらだめと言われたことがある。
- 大学進学の時、就職の時。  
言われても「今はそんな時代ではない」と耳を貸さずに進路は自分で決めたが、だいぶ言われたのは確か。
- 子供の頃社会人になった若い頃は時代的に当たり前のように女のくせにとか言われぬように出過ぎないようにそしてお茶だしや課内のデスク拭きをしていました。
- 子供の頃の夢が大工だったのですが、親から大工は男性がする職業だからダメ、花屋さんにしなさいと書き換えさせられた。
- 子供のPTA行事全般。
- 家事手伝いをさせられた。
- 大学に進学をするかどうかの時
- 赤ちゃんの育児(その時は遊びの時間)をしていた時に、夫が自ら家事をしていていたら、義父に怒鳴られた。
- やりたい仕事につけなかった。学校の先生まで性別を理由に向いていないと言った。  
子供が熱を出しても女が迎えに行くべきという風潮が強すぎてやりづらい。  
職場で、洗い物やお茶入れ、掃除は女だけにさせられている。
- こどもの頃から、世の中の風潮があったのと、そのように育てられた、という事が大きかった。
- 常に考えを押し付けられた。
- 女性は早めに家庭に入るという考えから、高校卒業後の進路は就職という選択肢の幅が減った。
- 進路や就職、仕事先での立場など親や上司の言う事は従うのが当たり前の時代だった。短大、就職、3年後には結婚退職がなぜか決まっていた。
- 服装 ズボンよりスカート
- 進学の際、親から進みたい所を辞めさせられた。
- 理系(農学・水産系)の大学に行きたいと言ったが、女性はそういうことをしなくてよいと言われ、名門大学の文学部ならよいのかと考え高校からその大学の付属を目指し、家を出た。  
それでも卒後就職を地元でしろと言われた。ジェンダーバイアスと言うより親のエゴのカテゴリーかも。

- 二人とも休日なのに、家事は私(妻)がしないといけない。  
子どもの保育園や小学校の書類提出や行事や習い事を私がしないといけない。
- 学生時代、母が親の介護のために家を空けることが多かったが父が「男は家のことをしない」という考えのため家事を全くせず、母の代わりに私が家事をして勉学に励むのが難しかった。
- ①子どものころ、母が家事の手伝いを私にだけさせ、弟はのんびりテレビを見ていても怒られなかった。私にだけ手伝いをさせるのがずっと納得がいかず、弟のことが嫌いだった。
- ②大卒で就職活動をしていたとき、男子生徒は無条件に総合職になるのに、女子生徒は全員一般職、総合職になるには3年勤務ののち所属長の推薦があった者が小論文を提出し、面接をクリアして初めて総合職になれるという不条理な目にあった。(男女雇用機会均等法が施行された翌年の入社でした)
- 家族の世話のために在宅での仕事を選んでいる。
- 進学、会社の昇進など
- 女性だから、名字を自分だけ変えねばならなかった。  
夫が子どもの行事で仕事を休むのは体裁が悪いので、私ばかり仕事を休まねばならない。
- 結婚が遅れるかもと言う理由で大学進学を短大進学にしたこと。
- 職場でのお茶出しは女の子の役目とされた。仕事先の方に(お姉ちゃんで大丈夫か?)というようなことを言われた。同じ仕事をしていてもお給料が安い。  
結婚しても旦那様よりは仕事ができない方がいいと言われた。  
家事は女の人がして当然だと言われている。
- 女性だから家事を覚えなさいと言われてきたこと。
- 親の意見
- 進学、就職の時
- 重いものを持つときに、男性だから持つべきと、女性に言われたとき。支払いはあなたがやるべきで、私は家事を頑張ってるからと、連れ合いに言われたとき。
- 業務での資格取得を希望したが、女性は使うことがないと断られたことがある。また、共働きで、主人が家事を積極的にしないことに不満。
- 義実家に行くと旦那が台所には絶対に立ち入らない。自宅ではやってくれるのに。嫁がやるべきと言われる。
- 女だから、男だからの考えはもう古い。
- 夫がそのような考えなので、結婚後正社員として働くことが出来なかった。
- 妊娠したら仕事を辞めさせられた。
- 子供の躾など

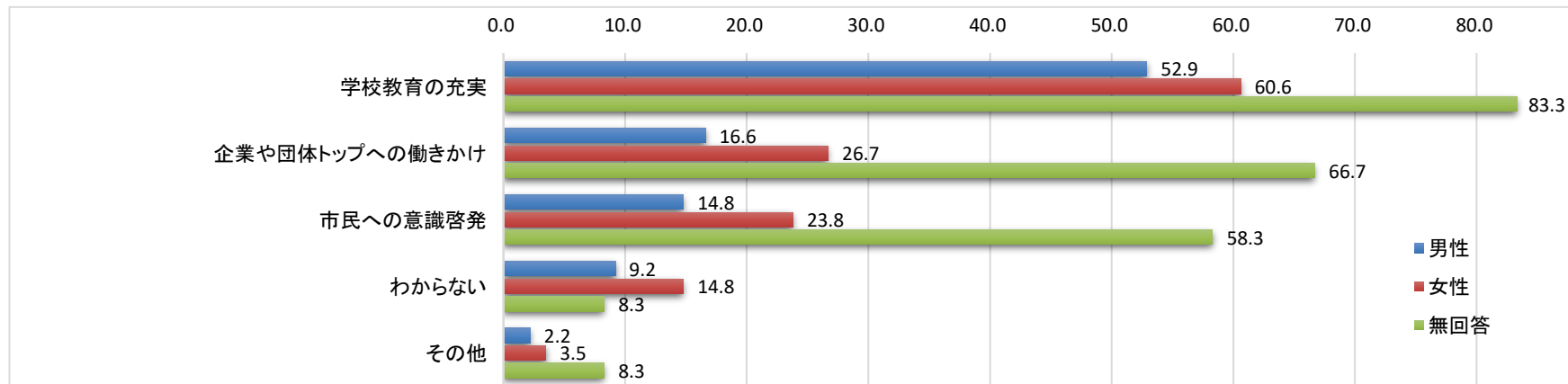
【Q7】家庭生活において、男女の地位は平等になっていると思いますか？(ひとつだけ選択)

内訳	男性		女性		無回答		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
男性の方が非常に優遇されている	19	6.8	88	18.3	2	16.7	109	14.2
どちらかといえば男性の方が優遇されて	102	36.7	212	44.2	6	50.0	320	41.6
平等である	66	23.7	61	12.7	2	16.7	129	16.8
どちらかといえば女性の方が優遇されて	47	16.9	31	6.5	1	8.3	79	10.3
女性の方が非常に優遇されている	7	2.5	0	0	0	0	7	0.9
わからない	37	13.3	88	18.3	1	8.3	126	16.4
合計	278	99.9	480	100	12	100	770	100.2



【Q8】アンコンシャス・バイアスについて、その意識の見直しを進めるため行政に期待することは何ですか？（あてはまるものすべて選択）

内訳	男性		女性		無回答		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
学校教育の充実	147	52.9	291	60.6	10	83.3	448	58.2
企業や団体トップへの働きかけ	128	16.6	274	26.7	8	66.7	410	53.2
市民への意識啓発	114	14.8	202	23.8	7	58.3	323	41.9
わからない	71	9.2	99	14.8	1	8.3	171	22.2
その他	17	2.2	15	3.5	1	8.3	33	4.3



【Q8】その他(対象33人)

- 学校以前だと思います。男だから泣くとか、女の子やから下品なこと言うとか、保育士さんもよく言います。指導者や保育者の意識改革が必要では。
- 女性市長の輩出、女性議員の増加。行政職の女性リーダー増加。産休育休の男女平等化。
- 学校・幼稚園（保育園・こども園）へのお便りや封書を送る際の注意事項として、保護者を「父兄」と表記しないこと、家庭調査票等の「保護者」欄の記載を1名のみとしないこと、封書の宛名を父親名としないことを徹底するよう通達する。父親が帰宅が遅い、出張中だと母親は開封できない（法令順守すると、たとえ子供の学校からのものだとわかっていても、個人名宛の封書は家族であっても開封したら刑法第133条信書開披罪にあたりますので私は開封しません）。また、「主に育児をする人」が「母親」と記入していても保護者欄に1名しか記載箇所が無く父親名を記載すると父親宛に封書が届くのを何とかしてほしい。
- あえて、そのような、考えを広める意味があるのかわからない。
- 預け先がなかなかなかったり、費用が高額であったりするので、土日祝日も子育てしながら働ける環境作りをしていただきたい。
- 公務員の女性を続けやすい制度を作って、女性重役などロールモデルを増やして欲しい。
- 週休3日等、休みを増やしてリフレッシュできる時間を増やす。業務見直しによる残業削減。保育園、学校、市役所等への紙書類の提出を減らす。
- 賃金を他国並に上げ、共働きをしなくてもいいように努力するべき。

- 和歌山に生まれ、地域から出たことがない人にとっては、周囲の人もまた同様に地域での思考回路しか無い。そのため、性別を問わず人の尊厳に配慮し性差によって、一方的なあるべき「わきまえ」を強いることが非難される世の中であることを、地方自治体が常に発し続け、旧民法的な「常識」から認識をアップデートする必要があるという市民の意識の醸成が必要である。同じく並行して条例やルールの制定や改正も必要で、例えば喫煙のように、段々と啓発や条例により喫煙者が野放図にタバコを吸えなくしてきた施策のイメージで、弱い立場にされがちな女性ほか人の尊厳を高めてほしい。
- そもそも何を見直すのかがわからないし見直す前提のものもおかしい。
- 十人十色の考えがあるので男だから女だから男女平等だからという先入観ではなく、個人が得意なことをしたらいいと考える。男女の脳の違いはどうしてもあるので各個人の得意な所を伸ばすようにしてほしい。
- 人や家庭によって考え方が違うので考えを押し付ける必要は無いと思う。本人が納得していない時は別だが。
- まず、横文字がわかりにくいと思います。英語読みより日本語読みの方がすんなり理解できると思います。このバイアスが強い人は年配のかたに多いと思います。さらに、男女差の無い企業があれば就職先として考えます。そういう企業は行政から発信してほしいです。
- 家庭での意識啓発
- 行政に関しては何も期待しない。
- 分かりにくいカタカナをどうにか変えた方がいいかなと思います。
- 偏った男女の違いはないと思う。
- 教育で伝えるのは難しいかも知れないが、やらないよりはマシ。家庭の歪んだ規範の修正は絶対に必要。
- 首長、市会議員、地方公務員全員の意識改革。
- 市役所や大企業の働き方に週3日などフルタイムではない人の割合を増やす。そこから徐々に何かしらの働き方が増え、家事をどちらかに押しつけない様にしていく。
- 行政がすべきでしょうか。
- 得手不得手、適材適所。女だから男だからと言う考え方を私を含め世間には浸透していると思うのでそう言う意識改革が必要だと思う。
- そんなことを行政に期待しないし、行政の仕事じゃない。

**【Q9】誰もが自分らしく活躍できる社会について、ご意見等ございましたら、ご記入ください。**

- 認め合うこと、人と違う自分のことも許せること、ととても難しいですね。社会が、人と比較することや競争することに慣れさせていると思います。大きな集団、小さな集団、さまざまな選択肢がある社会になればと思います。
- 家庭内で小さい頃から植え付けられる意識を変えるには、幼稚園や小学校から男女平等や個性の尊重を説く必要があると思います。中学校の制服も水着も男女兼用できるようなジェンダーレスに変えていく事も大事だと思います。
- 男女雇用機会均等法など男女同権が進められてますが、「等しく権利がある！」という事と「だから同じことをする！」と全く違います。例えば、妊娠出産は女性にしかできない貴重な生命維持活動であり、これは人類として、いや、それだけではなくこの地球上に存在する生命体として絶対的な尊重、敬意をもって対応していかなければ、我々は存続し得なくなります。ですからここだけは絶対に男女同じにはなれないし、男にはできません。この貴重な女性の権利を守るために派生する男女の違いはできませんし、男は何よりも敬意をもって最優先して女性のこの権利を守らなければなりません。男が女性のこの権利を守ってこそはじめて男女同権が果たされるものと考えます。ですから、我々人類としては、この女性の権利であり貴重な役割「妊娠出産」を最大優先事項と認識すべき！です。これを無視して「女性総活躍」を叫んでも無意味です。人類にとって一番の優先事項である「妊娠出産」及びそれを完遂するための派生事項をも一緒にたにしてしまった「アンコンシャス・バイアス」は間違いです。女性の最大活躍場面ですから、最優先して、一番大切にされなければなりません。にも拘らず、このアンケート質問内容にあるようなことを理由に女性の最大活躍場面が優先事項から外されてしまいかねないような社会風潮に、非常な危機感を覚えます。

- まず、自分の興味のあるものは何なのかを見極めるため、いろいろなことにチャレンジできるようにイベントの開催をしてほしいです。そのあと、引き続き続けられる仕組みを作ってほしい。
- 女性の社会進出、障害のある方の社会参加など、当たり前なのが普通に認められるよう意識改革が必要。現実はまだまだ厳しい環境にあると感じる。
- 人生で一度、違う国で暮らしてみると、自分の思う「当たり前」が変わったりするのかな？と思います。
- まずはどういう意見があるのか、どうすれば潜在的な、意識的な不平等を減らせるかをこういう限定的な場での意見収集にとどまらず、情報収集をしていただきたい。
- 大人も子どもも忙しくしているので、気付きと協力を子どもの頃から伝えていける社会になってほしいです。
- 男性でも女性でも向き不向きが、あるのだから得意なことをするべきだと思います。  
男性は女性より力仕事得意、女性は男性より細かいことが得意なのは、大多数だと思うので。
- 行政が学校教育に介入するのはあまりよろしくないのだが、校長や教頭を集めて彼らの意識改革を促すことはあっていいと思う。  
国会や企業役員を見ると率先して進めようと思っていないのでは？目指すのはいいが、権力を持っている面々が変わる気があるのか、甚だ疑問。  
名もなきいち個人の力では社会の見えない壁はどうすることもできない問題なので、まずは和歌山市内の企業や団体トップや自治体役員等がこの件についてどう考えているのか、現状はどうなっているのか、アンケートを取りまとめ発表するのもいいと思う。
- 私は専業主婦ですがまわりで働いている方々は色々女性だからと言う考えで家の事や子育ては仕事に加えて大変忙しくしている。やはり子育て家事は夫婦一緒にすることが子供にとってもいい影響を与えている様に思っています。何事も平等がいいと思います。
- 世代によって価値観は違うし大人になると変えるのは難しいと思うので、今の企業や行政のトップが世代交代しないと男女平等の社会は訪れないかなと思います。  
世代の価値観で社会が決まると思うので、私達の世代が企業などのトップになる時には今より男女格差はマシになっているんじゃないかと思っています。  
今0歳の子どもを育てていますが夫は育児も家事もなんでもできるので、子どもには男女で役割を決められない生き方を見せていきたいです。
- 互いの性を尊重し合う精神が必要。  
首相や多くの知事が女性になるのも今後の日本にとって良い見本になる。女性リーダーの活躍は希望を与えてくれる。
- 幸い自身の周りでは女性は大切にされて職場も家庭も自由にさせていただいています。
- 家事についてはともかく、育児は母親父親両方が担うものだと思うので、男性の育児休業を義務化してほしい。1日とか1週間ではなく。
- 市役所の管理職は男性ばかり。そこから改革されては？
- 政治、経済の世界のトップの女性登用がどんどん進んでほしい。男性の家庭への時間の優先をもっと社会全体で進めてほしい。残業をしなくても良い給与をもらえたり、人員が確保できる企業が増えたら良いと思う。日本の伝統も良いが、諸外国のジェンダーレスの文化を社会全体でどんどん取り入れてほしいです。
- 「〇〇はこうあるべき」「??はそんなことをしてはいけない」など、性別や年齢、属性などで生き方を押しつけず、また自分自身もしばりつけないことが大切だと思います。そのために、学校や保育施設などで低年齢のうちから、さまざまな生き方に触れ、互いに認め合う経験ができる機会を作っていただきたいです。
- 学校教育について他の国より色んな面で遅れていると思いますし、先生方への負担が多いような気がします。
- 子供時代の家庭環境が大きいと思います。  
猿や犬には上下関係があり、それはとても厳しく、じぶんよりも下か上か見ていると聞きます。人も家庭内などで相手が自分よりも上か下か見てるんじゃないでしょうか？また、家庭であいつはどーだと言った事を親から聞くと信頼性が高いので悪いことも良いことも自分で確かめる事をしなくなるんじゃないかと思いますが、小さいうちから自分自身で考える事が大切だと気が付けば、今よりは段々と偏見などが減って行くのでは無いかと思う。
- 社会で感じる事はまだまだ女性よりも男性の方が優位であると感じる。現在学校教育を受けている方々が将来社会でリーダー的存在になるにつれて、徐々に薄れては行くと思う。まだまだ現在リーダーシップを発揮している方々が昔の教育を受けた方々であるので、意識を変えるのは難しいと思う。世代交代が必要であると思う。
- 男性女性に関係なく、みんな平等に働くには、もっと積極的に女性を役職につけるべきだし、それに伴う保育の充実や体制の支援を行政が充実させるべき。
- 凄く難しいテーマ
- 『経験はものを言う』と言われるように、出来る人 出来る事を、男女問わずして行けば良いと思います。
- 先ず、家庭から見直し、社会へと発展させていく共同参画社会を構築する。
- 共働きの夫婦でも全く家事をしない男性がいるというのは腹立たしい限りです。こんな理不尽な社会がなくならないと自分らしさを追求など出来ない気がします。
- 性では無く人として生きる鍛錬が、無意識偏見から脱皮できるのではと思います。

- 職場や学校でのウェアについて
- 男性、女性に関わらず実力や力量で物事をこなして行ければいいと思います。向き不向きは誰でもあるので互いに仕事家庭補えれば会社や家庭は良くなると思います。男性だから、女性だから、と、決めつけは、良くないが家庭では女性が子供を産む等社会的に時間が自ずとさかれる為男性に仕事や金銭面では、頼らざるえない、、、子供が出来産むまでは、体面で仕事の制限は、必要なので、男性と全て平等は負担になります。
- 男女平等の考え方を伝えて、共有する
- 相手の気持ちになって物事を考えてみる、そんな人間性が備わるような社会になるような、教育、職場をそれぞれのリーダーが考えてもらいたいと思います。
- 多様性と寛容さが大事。価値観の違いをお互いで認められるようにしていきたい。ただ社会のルールはみんなですべて守っていかないと成り立たないと思います。
- 同じ組織に老若男女、海外人材、障がい者など多様な人を積極的に入れること。当たり前が当たり前ではなかったと気がつくことができると考えます。比率が悪い組織へは制裁金を課すなど仕組み作りの優先をお願いしたいです。
- ・個性を尊重する社会を育てる  
・誰もが一律に同じでないといけない、という日本特有の考え方や意識を変えていく
- ステレオタイプな人達は、頭が固くて変わらないと思うが、それでも、「その考え方は違うのです」と、伝え続ける事だと考えます。
- 自己肯定感を高くもつこと。
- 無理やりではなく、出来る人が、出来る事をする。
- 現代社会は数十年前と違い、男だからとか女だからとか、ということとは言わなくなり、男女平等だということを国会でも取り上げることがあるが、実際はまだまだ企業や家庭において男女差別が少なからずとも有る、そのことが原因でDVが起こっていることが多々ある、男も女もお互いを思いやるのが大切だと思う。
- 10年ほど前に引っ越してきましたが、和歌山は男尊女卑の傾向があるように思う。  
身体的に機能が違うところがあるのだから、全て平等とは行かないと思うが、それぞれが得意とすることをいかして、状況に応じて上の立場になったり、下の立場になればいいと思う。
- これからの世の中は男女共生社会で、ジェンダーフリーになる平等の社会になるように願っています。
- 親が子供には優しく接するべき。それによって人は優しくなれると思う。
- 今、子供を育てながら、仕事も復帰しつつしていますが、結局、子育てをしながらの仕事は、女性にかなり負担がかかるし、働けというわりに、保育料が高かったり、もっと優遇されないと厳しいと感じることが多いです。
- 女性が育児をするという考えが強いので社会全体で子育てする環境を作る。職場復帰しやすい環境の提供。
- アンコンシャスなものを、コンシャスにすることが重要。子どもはまだバイアスが出来上がっていないので、素直に多様性を受け入れることができる。頭が固くなっている大人は子どもから気づきを得ることができると思う。
- 男だから、女だから、というのではなく、平等に機会を得られる様に環境を整える事が必要なのだと思います。
- 社会の中で、こどもや親の急な体調不良などで休まざる得ない状況になった際、まだまだ風当たりが強いです。地域で子どもを育てる、年配の方を支えるという意識をもち、協力できるようになるといいなと思います。
- 社会全体に考え方を改める必要がある。
- パートが130万を超えても働き損にならず、キッチンと収入が増やせるような働きやすい税制にして欲しいです。そうすれば女性の社会進出と活躍が増すと思います。
- 男女平等と長く言われていますが、体力の問題 出産等全く平等になるとは思いません。
- 学校教育がかなり遅れていると感じます。  
男性優位で育った家庭の子どもは学校で学ぶ以外に学ぶ場所がありません。地域や家庭は「男の子は～、女の子は～」と性別で分けた話題ばかりです。(共感を得やすく、楽なんでしょうが。)
- 男女差別は今も健在している。(昔と逆転しており、女性優位になっている)  
カップル: 男性が送り迎えをし、ご飯をおごるという概念があり、男性が負担を強いられる。  
レディースデー: 男性の割引はなく、女性のみ割引しかない。  
男性も女性も働いており、収入の差はなくなっているのにも関わらず男性が金銭面で不利になっている。

- 性別を問わずお互いを尊重できるようになればいいが、現実にはなかなかそうはいかない気がする。
- 難しいですが周囲に敬意の示せる人が活躍してほしいです。
- 今の若い世代は子育て申し込み一緒にしている。
- 別に「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」という考え方に忌避感などなく、この考え方は日本の文化でもあると思うので悪い事とは思わない。考え方を考える取り組みは必要ないように思う。でも、外で働きたいという女性の方を公的機関などがバックアップしていく事で「誰もが自分らしく活躍できる社会」の実現に繋がるのであれば、それを止めるとは言わない。女性が精力的に働ける環境を作るには、保育や家事の負担を下げる必要がある。男性に対して重点的に教育が必要だ。小学校ぐらいから教育していけば、数年後にはかなり浸透するのではないかとと思う。
- 正社員やパート、アルバイトに限定されない雇用形態の創出、定年退職後それまでの経験を活かして働ける環境の充実、小学校中学校の不登校児に対して個別に教育や福祉制度が受けられるシステムの構築、出所後の住環境や就職の支援の充実等。
- 昭和世代は男女の役割がはっきりしていて、女性の立場が弱く、意見を述べることもできにくい時代でしたが、それを思うと今の時代は、男女の区別もなく能力に見合った役割分担ができています。ただ昔辛抱して仕事・育児・親の介護と頑張ってきた女性たちにきちんと評価をしてあげてほしいと思います。そうすることで足の引っ張り合うことなく豊かな考え方に変わってくると思います。
- 同話問題のように人の心深くにあるもの(差別や女性蔑視)は、簡単に払拭できません。たえまない啓発が必要だと思います。
- 昨今は女性も活躍していると思うので後一歩男性の意識を変えてもらいましょう。
- 活躍できる社会は実力社会に改革されるべき。今後益々グローバル社会に入ると、外国人とのコラボ社会に変化する。国際的感覚を持ち得ない人は活躍の場が失われる。怠け坊主や努力しない人間は社会から脱落、その人間を救おうとする社会が自然ではない。活躍する人間を育てようと思えば、教育の抜本的な見直しと環境の整備や活躍できる職場づくりが必要。和歌山は全く出来ていないのが事実。このままだと若い優秀な人材は外部へ流失して～魅力のない県になる
- 男女の別だけでなく各人の特性がある為一概には言えないが、社会の偏見で物事を決めていることは極力無くしていきたいが、全ての条件を際限なく自由にしていけば収集がつかなくなる。
- 『これだから、こうあるべき』ということも大事な部分ではあることが、そこから平等性が失われてしまうので、『こういう考えがあるんだ！』と一度相手の気持ちを受け止める必要があり、そこから対等に話をしお互い助けあう環境を作らないと誰もが自分らしく活躍できる社会というのは成り立たない。しかし、競争社会であるがゆえに、その矛盾が生じてくる。
- 「家事や子どもの世話をするのが女の役目」と言う呪いが強く根付いているので、男も家事や子育てに意識を持ちちゃんと行動をしてもらいたい。それを当たり前の感覚になってほしい。
- 先ずジェンダーに関する根本的な考えを変えなければ前には進まない。
- 個人が誇りをもって生活する。
- 小学校は男女差なく対応していると思うので、そのまま育て欲しいと思う。
- 女性は事務職、男性は総合職など分かれてる会社もあるが能力の差はないはずなので、そういうのをまずは撤廃すべきだと思う
- 組織も大切ですが、やはり個人の意識を変えて維持することが大変だと思います。それがなかなか難しいと思いますが、実家が近くて、共働きフルタイムの若い世代は、比較的出来ていて理想的なのかなと感じます。
- 親戚の集まりで(最近は集まれません)、女性が男性にお酌して回る、というのが理解できません。「もういいです」という人にも注ぐし…「いらないです」という人に無理矢理甘い物を食べさせますか？ 呑みたければ、自分の欲しい種類のアルコールを欲しい分だけ注げばいいのに、と感じます。  
女は土俵に上がれない、だの、女人禁制の山、とかおかしな風習ですよ。現代の技術では、人類は全て女性のお腹から産まれてるかと。その女性を穢らわしい、などと下に見るのはどうかと思います。
- 男女は平等でなければならないが人間にはそれぞれの役割分担があるし自然の摂理でもある。  
社会が！男は働き、女性は子供を産み育てるとしてきたが、子育ては二人で行わなければならないと思うし、男子の育休をもっと活用出来る社会にならないといけないと思う！
- 若い世代(20代)は偏見がないように感じるし、30代以上も考え方が柔軟で変化に対応できる人もいる。ただ考え方が古い人も一定数いるし、そういう人が強い社会が現在だと思う。
- 議員の半数を女性にすべき
- 人は、その人にしかできないこと(使命)が必ずあり、多様性(横並びではなく...)の理解をすることが大切であると想います。



- 今までの固定観念から変えて行く事は容易ではなくやはり社会全体から変えて行かないと実現には時間はかかるが時代の変化と共に変えて行って欲しいとも思う。
- 自分らしくは、とてもいい事だとは思いますが、行き過ぎると、それはワガママになると言うのもあると思います。今の時代、なんでも尊重してくるが、自分達がちゃんと出来ているのか、また、気配り気づかいが、出来ているのかも疑問に思う。(自分も含め)
- 自分の意見を言える世の中になれば、個人個人を尊重出来ると思う。
- 子育て世代は、自分のペースで生活するには、ゆとりのある時間がない。家事を減らす工夫、家事を分担できる環境を整える必要がある。
- AIなどを活用し単純作業が減少するので、学校教育や個人の意識改革(高度な教育を受け専門知識を得る)で自分の価値を上げ、収入を増やし、余暇を創り個性のある人生(子育て・趣味・社会貢献など)を楽しむ。
- 和歌山県の方は、親戚、ご近所の事まで関心を持ち息が詰まりそう。  
古くさい独特の文化なのか習性なのかを押し付けるのを無くすとより自分らしく活躍できる場を広げられると思う。
- 全ての市民への啓蒙をしっかりと行うことは時間、コスト、労力の面から困難だと思う。子供への教育の中でジェンダー、平等、人権などについてしっかりと伝えていくことで将来全市民が理解を深めてだれもが自分らしく活躍できる社会を目指すのが現実的だと思う。
- 小中高大学等、発達段階に応じたレベルで教育機会の提供。幅広い女性の学習とエンパワーメント機会の創出。
- 社会のありようが、男性優遇になっているので、女性が自分らしく活躍というのは、なかなか難しいと思う。
- 社会生活や高齢者の中で具体的に取組んでいる事例などを紹介して欲しい。
- 50代後半、未婚、女性で非正規雇用で働いていますが、若い頃に比べると働き方、会社や人の考え方も変わってきた事を肌で感じています。
- 自分の価値は自分で決める。他人の評価などを気にせずに生活する。
- アンコンシャス・バイアスという言葉はまったく知りませんでした。

なので、認識自体が間違っているかもしれませんが、ご了承ください。

まず、男女の差は生物学的にも、精神的にも、身体的にもあることは疑いようがありません。

元男性のトランスジェンダーが、女子大会で他を圧倒したり、学力試験では女性の方が高い傾向があるなど差は間違いなくあります。

元来、男性は狩猟のために筋力がついていたり、女性には子を養うために知恵を絞る必要がありました。

自らの生物学的な長所を活かし、生物は発展を遂げてきたはずで。

もちろん、動物には個性があります。その個性は尊重されるべきでしょう。

例えば、類まれない筋力を有した人でも、繊細な料理の道に進みを進める人もいます。

自分に合った道を選ぶべきだし、その道が本当にあっているのであれば、周囲の環境がそれを妨げることはあってはなりません。

しかしながら、個性による例外(確率的なばらつき(産物)のために、全体的な傾向を蔑ろにするのは、それはそれで問題があるように思います。

例えば、全体的に男性の方が筋力があるのに、男女平等で女子にも同じように肉体労働を強いるのは酷な物です。

肉体労働や肉体美に目覚めた女性ならば、喜んで実践するでしょうが、実際は少数派です。

そういった少数派の道を閉ざしてはなりません、その少数派のために全員が同じことを強いられるのは少し問題です。

今回の選択肢にもありましたが、「受付対応は女性」や「組織のリーダーは男性」といった考えは大まかには間違っていないと思います。

交渉によって最大の対価を勝ち取るような仕事であれば話は別ですが、一般的には女性の方が受付対応では好印象をもたれます。

組織のリーダーとして、他になめられないように、屈強な体格であったり、強力な実績や勲章を背負い皆を率いるので、全体的に百戦錬磨の経験を積んできている男性は適している傾向にあると思います。

もちろん、ハニカミが素敵で受付が好きだったり、得意な男性は受付をするべきだし、妨げてはなりません。

同様に、多くの実績を持ち、百戦錬磨を潜り抜けてきた女性がリーダーをせず、誰がするのかと考えます。

このように、悪しき慣例と理に適った慣例は分けるべきだと思います。

男性の筋力が高いことによって男性の割合が多くなった事例は、過去の経験から慣例となったものだと考えられます。

長い時間かけて、そのような姿が適していると判断されたということなので、これはそのままが良いと思います。

一方、昔の女性は大学に進学する道さえありませんでした。あっても、高等師範学校レベルまでだったかと思います。

そのような人間による環境要因が起因して、男女に差が表れたのであれば、それは取り払われるべきでしょう。

分けるところは分けて、アンコンシャス・バイアスの改善に全力で取り組んでいただきたく存じます。

よろしくお願い申し上げます。

- 男性が仕事を休みやすくするべき。子供のことは母親まかせな世の中を改善すべきだと思います。
- 年代によるギャップはあるし、決めつけがある。いまの世代の人は比較的 理解していると思う。
- 男女平等だからという先入観で男も家事をするべき、女も仕事をするべきと考えるのではなく得意なことを実行すれば良いと考えます。
- 男女どちらでも好きな時に有給を使え、子供を優先に考えられる社会に。母親が会社を休むのが当たり前な社会は終わって欲しい。
- 自分らしくを勘違いしない人が増えて欲しい。
- 偏見を偏見だと知ることが大事。企業でも〇〇ハラ等の研修が実施されているが、そのようにさまざまな世代に広め、知ることから始めれば良いと思う。
- 『男らしく』、『女らしく』、『自分らしく』の前に、1人の人間として自分の意見を発言し議論ができる人間であることが必要かと考えます。議論の場に置いて、威圧する態度、発言する者がいる場合は、議長・主催者が制し、必要な場合は排除することも必要です。
- まだまだ女性は結婚すると女性は家庭の事をするのが当たり前だと男性は思ってる人が多いと思う。
- 男女平等イコール対等、とは思いません。場面場面で男性のほうがふさわしい、女性のほうがふさわしい場面は必ずあると思っています。古い考えですかね？
- これからを担う子供たちに学校教育できちんと教えていくのが良いと思います。
- 最近行き過ぎた「平等」がまかり通っており気持ち悪い。なんでもかんでも平等を掲げて、区別することすら差別と言い張るのは間違っている。
- 男は、仕事・女は育児家庭の文化は消し去る事は出来無い。日本では??
- 最近、多少男女平等が定着しつつあるように思います。私達の時代は、そういう物だと思っていたから、これからはもっと生きやすい時代になると思う。
- 自分らしさを発揮できる場を、市としてはもっと積極的に用意していただければと思います。
- 和歌山は大阪や東京などと比べて、田舎で閉鎖的だと感じます。だからか、男尊女卑的な男が偉い、女はあかんみたいな考えの方が多い気がします。それにみんなの輪から出てはいけない、空気を読む、忖度など、古臭い習慣を周りに求めてくる。自由に自分らしくははるか彼方だと思います。
- 子どもが4人いますが、今パートをさせて頂いている会社は子どもを職場に連れて行ってもよい環境です。夏休みで子どもが家にいる時や仕事の忙しい時には幼稚園にお迎えに行き戻りもできるのでとても助かっています。  
こんな会社が増えたら女性も働けると思います。
- 男性、女性、障害者、LGBTであるという前に皆が1人の人間であるという前提が全ての人の意識に根付いたら良いなと思います。
- 旦那が育休を1年取ってくれるはずだったが、上司に難色示され取れず、拗ねて転職して、転職後1年も経ってないので有給もなく、育休も一日も取れず。就職後すぐでも育休取れる世の中なら良いのにな、とも思いました。
- 今すぐに結果が出るとは思えないが、コツコツと積み上げていくことが大切だと思う。  
行政や教育だけではどうにもならないと思うが、出来る限りの対策はしてもらいたいと思う。
- 何か注目のテーマが決まるとそこばかりになって、他はおいてけぼり。もっと広く注目するところばかりでなく気付ける、話せる、形になれば変わるかと思うが、生きづらい世の中です。
- すべては教育の問題だと思います。学校教育だけでなく、家庭でも社会にもおいても教育の場が必要だと思います。
- 男女が完全に平等になることは実は難しいのかもしれないが、段階的にいろいろな障壁をなくすことはできるのではないかなと思う。
- 自分らしく生きていくかどうかは自分が決めることなので、今ある中で誰もがより幸せな環境を求めているのではないのでしょうか。同じように活躍できているかどうか自分も納得できていれば他人がとやかく言うことではないと思います。  
人からの評価を気にしている時点で自分らしく…ではないと思います。
- 職業の平等を訴えると、女性側が仕事・家事の負担が増える。しかし、それを逆に利用しすぎると男性側にも不満、また企業からも波風が立つ。社会自体がまず、働き方改革を推進してもらいたい。しかし、今の和歌山にはそれを受けられる器が少ないような気がします。若者はどンドン都会、大阪に出て行ってしまし、格差が出てきている。教育費の負担をなくし(幼児・小学生ではなく、高校生・大学生を持つ親が一番経済的な苦勞が多く、そんな子供をもつ女親は不平等でも仕方ない職場で働かざるを得ない状態にあるような気がします)、もっとゆとりのある働き方が推進されるとよいと思います。
- あまり他人様を気にせず自分の価値観も押し付けず、居たいものです。
- 男だから女だからというよりも、誰もが何かやりたいことがあったらそれが優先できる時代になってほしい。
- 男性も育休を積極的にとるべき。それも長期間にわたって。
- 8時間働いたら、十分に生活できる賃金を保障すべきだ。
- 個人個人には様々な特性があると思いますので男女の性は尊重して機会に不平等がない社会にすべきです。
- 義務教育の時に考える機会を作っていくべきである。

- 先ずは小さな地域の単位 町内会単位から男女参画を！  
町内会長の50%を女性に！次に行政機関の管理職の50%を、等々ステップを踏んで、。
- 性別に関係なく・・・ではあるが、人として他人を思いやる気持ちはいつも持っていなければならないという教育が一層必要になってきますネ。  
細かい話ですが、バス停の清掃をしていますが、吸い殻、包装紙、飲み物の空缶やペットボトルが放置されています。ここは年寄りの掃除する所と思われるようで、悲しくなります。
- 何でも男女比率を均等にしていくことによって、単身赴任は男性が、育児は女性がという考え方は自然となくなっていくと思う。
- 幼いころの教育や経験で人格や、ものの見方や考え方が形作られる。小学校での教育に特に力を入れるべき。三つ子の魂百まで・・・71歳になると中々考え方は変わらない。
- 何故、べきとか思うのですか・??人は自由でアルベキ??
- 私の職場では男女平等で働いていますが、でも役職のついた人は男性が多く感じます。これから先、忸度なしに働ける職場が増えることを期待します。
- 先ずは、市役所から。女性の市議会議員を増やし、部長、課長の女性比率を増やさなきゃ。
- みんな平等になるのが一番だとは思う反面、体力に男女差があるのも否めません。そうすると活躍にもなんらかの差が出てきますがそれを容認できる社会であれば全くの平等を求めると必要もないと思います。また、平等を謳いつつ実力にも差が有りますから、単に平等ではなく能力や成果が認められて優劣がつくのも仕方がないと思います。その人それぞれに合った場所で個性が認められる社会が実現されることを望みます。
- 男女関係なく個人個人の自覚で社会を築く事が必要だと思えます。
- こうしなければ、ああしなければが多ければ多いほど日々のストレスが貯まりやすい。適した人が適したことを行えば気持ちは楽であると思う。
- 社会的心理的安全性が高い状態となれば、自然と自分らしくはふるまえるようになると信じている。  
但し、好きなこととできることが異なるのと同様に、自分らしく振舞った結果、それが社会的な活躍へとは、必ずしもつながらないとも考えている。  
寛容な社会であれば各自、自分らしく生きることは可能と見込んでいる。
- 若い世代より高齢の方の意識改革が必要なように思います。高齢の方の目にとまるような発信を期待します。
- 残業前提の働き方が未だに強く、管理職や経営者の意識転換が大事になってくるとおもいます。
- ジェンダー、年齢、障がいや疾病の有無、国籍などに関わらず、許される限り多様な社会活動と社会参加が和歌山市においても求められている。私も複数の関係団体で取り組んでおり、続けて行きたい。
- もっと自由な教育があれば良いと思う。幼稚園小学校中学校高校、海外みたいに心を育てれる教育を入れて欲しい
- 男女平等とは簡単にはいかないと感じる。女性はどうしても妊娠、出産育児があるため、子育て中は男女での役割分担だと思っている。男性も仕事で大変な思いをしているため、協力していくしかない。
- それは、理想論であり絶対に無理。
- 若い人は夫婦と一緒に台所に立ったり、家庭生活や社会でも平等になりつつあると思いますが、まだまだ年配の人の中に古い考えしかない人がいるので意識を変えるのが難しいでしょうが年配の人の意識改革して欲しいです。
- 性別、年齢、家庭環境にとられない社会を実現すべく、官民一体となって取り組むべきだ。
- 親の教育方針、家風にもよるんじゃないですか？
- 矢張りアンコンシャス・バイアスなどの旧態依然たる偏見や思い込みを排除するための啓蒙や、自分も含めてこれまでの意識を積極的に改めて行くことが肝要であろう。
- アンコンシャス・バイアスという言葉は聞いたこともなく、意味も勿論知りません。このアンケートでこんな言葉があったのだと知りました。  
この言葉と意味を皆さんに周知するのがいいと思います。
- 「女は家庭、男は外で仕事」など家制度のなごりが根深く、現代社会においてその考えを基に成り立っている社会の仕組みがある。男女間での賃金の差も縮まっていない。そんな中で自分らしく活躍できる社会の実現などまるで夢幻のよう。男尊女卑の考え方も根深く感じる。女は家、男は外で成り立っているシステムをまずは破壊すべき。
- 行政の会議やイベントに参加をしても、壇上にあがる肩書きのある人は、男性が多数で女性は1人か2人。  
特に市長や知事をはじめ、役所の人代理で女性の人はあまり見たことがないと思う。  
公共の場で目立つところでは、男女比を同じにして、見た目から変えていくと、自然と周りの意識も変わっていくと思う。
- 今の教育だと、学生から社会人になる=雇われる(よい会社に入る)選択肢ばかりなので、職種、働き方の多様性も教育が必要かと思えます。

- 母の日には、お母さんいつも家事ありがとう、父の日にはお父さんいつも家事ありがとうってならない。なぜ、家事してる父もいるのに…。まず世の中全体がそういう風になっているんじゃないのかと思います。
- 自分らしくって言ってもらわないと伝わらないし、言っても伝わらないかもしれないので難しいですね。
- 子育てにおいて母親の負担が多く、その祖母にも負担すべきとあたりまえの風潮がある。
- 保守的な地方では難しい。
- 社会のシステムが、誰もが活躍出来るように整っていくのはもちろん大切ですが、その社会自体が個人の集合であると言う、個人の責任と自覚ある言動こそが根本的に大切だと思います。
- 難しい
- 個人の多様性の相互理解の探求の普及 教育の推進
- 男女における適材適所はもちろんあると思うが、どちらでもできる事は性別に関係なく平等に与えられるべきだと思う。
- 活躍したくない人もいるだろうからそういう人がいるんだということも受け入れてほしい。
- 年齢にも当てはまると思うのでそういうバイアスが取れれば。
- なにかしらレッテルやこうあるべきが蔓延しているので、それがなくなり誰もが自分らしく活躍できる社会が実現すると良いと思う。
- 昔は男性優位な面が多かったし私自身もそれに遭遇、経験したことはありましたが今は自身は自分らしく自分のやりたいように行動し意見も言える範囲では言ってるつもりです。が、まだまだ陰口のような感じで女のクセにとか男なんだから..とかは世間が多い!! 啓発は必要ですがその場は賛成してもやはり昔ながらの考えや風習はなかなか簡単には変わらないような気はします。特に年配者はわかっているようで全くわかってない人多いです。
- 多くの教育機会が、生涯に渡り与えられること
- 仕事上、高い能力があれば性別に関係なく登用すべきですが、女性活躍推進だからといって、たいして能力のない女性を登用するのはおかしいのでは。また巷では女性限定のイベント(スイーツ食べ放題、etc)をよく見かけるが、違和感を覚える。女性もよく食べます。
- 私達の世代(35歳)は、小学校の途中で男女で出席番号で別れていたのが男女の通し番号になったり、「これからは男女関係なくやってみよう」というのを目の当たりにしました。切り替わるタイミングだったため、非常に印象に残っています。そのため、周りの友人も比較的フラットな考え方が多く、あまり差は感じませんが、親世代を始め、「とは言っても」という考え方は多いです。学校教育は、非常に重要だと思うので、積極的に展開してほしいです。
- 権利だけを主張するのは良くないと思います。平等には思いやりが必要です。
- これから育つ学生には、授業で人は平等の権利と義務・他人と比べない・今此処あるのは自己責任である(日々起こる選択を自分が選んだ結果なので人の責任にしない)等、自分軸で生きる術を見つけさせてあげる。
- 超高齢化社会に、自分のような高齢者が元気に生きるためにも、アンコンシャスバイアスについて、考えたいです。
- 選択的夫婦別姓が認められていない現状では、婚姻により姓をやむなく変えざるを得ない人がいます。その多くが女性で、改姓をすべきと圧力がかかるのが当たり前になっていて、不本意に改姓をする人も多いです。このことが、女性の社会進出を阻む一因となっています。現状の制度内で社会的な断絶を軽減するため、旧姓の使用について広く認められて然るべきです。けれども、和歌山市は他府県に比べて三十年以上遅れています。私は結婚し、出産後に家族の仕事の都合で和歌山市に転居してきましたが、子どもたちの学校で、結婚して旧姓を使い続ける先生がいらっしやらないことに驚きました。旧姓の併記すらされることがありませんでした。他県では、四十年前から、婚姻後も旧姓を使い続ける先生がほとんどでした。また、民生委員の活動に和歌山市では旧姓使用は不可と聞きました。さらに、子どもたちの学校のPTAでは、会長に加えて女性代表という役職が当然のようにあり、違和感を覚えます。上位組織である、PTA連合の組織形態が、会長は男性、それに加えて女性代表を選出することを前提としたものになっているため、単独の学校PTAで改善することは困難です。このように、残念ながら、今の和歌山市では、男女共同参画社会の実現とは程遠い現状があります。けれども、住民票に旧姓の併記が可能になった現在、また、コロナ禍でPTA活動が縮小化し、悪しき伝統が途絶えかけた今、和歌山市も変わる時だと考えます。ぜひ、トップダウンで旧姓の使用を進め、他府県から来た人が絶望感を持つことのないように、変えていただきたいです。

- 社会性は必要なことなので少しは世間体を気にしないといけないのかもしれないが、必要以上に他人についてあれこれ干渉する人もいるので窮屈さや生きづらさを感じてしまう。  
人それぞれいろんな事情や境遇があって、その上でいろんな想いを抱えているし、最近は多様な価値観がどんどん明るみになってきている。男だから・女だからこうあるべきみたいな「これまではこうだったから違うことは受け入れ難い」って思っている人もいるだろうけど、時代に合っていないことも多々あるし、まだまだ増えていくと思う。  
もっと自分らしく過ごしたいと思っている人が他人から干渉されず、心置きなく自分の希望する方向に進めたり変化することができる世の中になってほしいし、一人ひとり意識改革が必要だと思う。
- 今の日本ではトップが男ばかりなので無理だと思います。
- 現役時代、女性の役職者、技術者、研究者等活躍されていました。但し、他のアジア諸国の方がその比率は相当高かったです。  
また、長期育児休暇を取った若い男性社員も職場に少なからずいました。啓蒙大事ですが、日本は同質化を好む方が多くリスペクトも少ないと感じます。  
長期にわたり啓蒙・教育でしょう。
- 男性も積極的に子育てできる環境がまだまだだと思う。
- 固定概念に囚われすぎず、もっと性差関係なく柔軟に働ける社会。
- 啓蒙活動がもっと必要
- 男性が家事や子育てに参加するだけで褒められる社会がおかしいと思う。
- 私自身が発達障害で、見た目にはわからない障害を抱えているため、人よりもバイアスの影響を受けることが多いと感じています。  
実際に感じることで、若者や子供よりも高齢者にバイアスを持つ人の割合が多いと思います。  
もちろん、老若男女関係なく理解のある人はいます。理解はできるがどうしても腑に落ちないという人もいます。  
そういう時は、思考は自由だが「口に出さない」という行動をするという選択肢も伝えた方がいいのではないのでしょうか。
- 男、女、自分らしく出来る社会は、結婚や出産を考えるとなかなか女性が活躍出来るチャンスは少ないと思います。子育て支援をして若い世代の方の活躍が出来ればと思います。
- 自分らしく活躍。肩肘張って、キラキラしなくてもいいと思う。
- 十人十色、自分らしくできるわけがない。
- 女性差別と言う言葉が先行しすぎている感じ。なんでも女性、女性で逆に男性差別になっていると思う。
- 意識も社会もまだまだ変化は無いと思います。何か発言すると煩わしく思われる。それが嫌でも何も言え無い。黙っている。  
変わらなければいけないが、どうすれば良いのか分からない。教育が大事なのかな。
- 適材適所であって男性なら男性、女性なら女性が活躍しやすい仕事をするべき。  
無理にあれもこれも女性にやらせろって行くと社会が回らなくなる。
- 固定観念にとらわれず人の話を聞く耳を持つ  
若い方も自分の意見をハッキリ言えればいいと思います
- 今、生きている大人の意識はもう変わらないと思う。せめて将来の子供たちが嫌な思いをしないように、教育を大切にしたい。
- 子供の頃から、やはり教育は大事かと思う。
- 資格が無くとも得意とする事を仕事にできる社会になって欲しい。  
例えば男性が化粧品に詳しくれば男女関係なくデパートの化粧品売り場に立てたり、現場監督に向いている女性が建築関連の職場に立てる世の中であって欲しい。また、家庭環境で短時間や、週に数日しか働けなくとも環境を理解し働ける場所が欲しい。  
和歌山にはまだそんな寛容な場所は無い。
- 男尊女卑の社会を早く何とかしないといけないと感じています。レディーファーストなる言葉自体も実は男尊女卑の裏返しではと思っています。
- 男女を問わず全ての分野へチャレンジ出来る社会風土を国民全体で構築する方策を行政教育分野で模索して欲しい。
- 男女別や職業による賃金の低さが問題
- 「男だから」「女だから」という意識を取り払えるよう、うまく啓蒙できたら良いが、どうしたら上手くいくのかはわかりません。
- 自分らしく活躍したくても、活躍出来る場所を見つける事が難しくて…
- 色々な角度から挑戦できる、きっかけがほしいです。

- 中小企業では、女性への管理職、昇進がないのが現状！民間企業でも、積極的に男性育休の推進できるように市町村が企業に働きかけてみては？
- 学歴社会がまだある。改善が必要
- 非難ではなく応援する。失敗を責めるより成功をたたえる。そんな社会になってほしいです。
- 誰もが自分らしく、は、理想と現実であって、全ての人が平等に生きられることはない。区別と差別を混同し、義務を怠っているのに権利ばかり主張する人が増えたと感じる。
- 就職活動をしていても未だに「妊娠・出産予定はありますか？」「家事育児と就業は両立できますか？」等、家事育児を女性がして当然だと言わんばかりの質問をされます。働いていても家事育児のために休みを取ると迷惑がられたり、心無い言葉を投げかけられます。その度に悲しく、悔しいです。就活中の質問や就業中における言動についてガイドラインや罰則があると、「女なんだから...」と傷付けてくる人や傷つく人が少なくなると思います。
- 世の中、変わっているのに、意識も変わらないといけませんよね。  
以前はアンケートに答えたように思っていたのですが、自分の娘などをがそうされると可哀そうかなと自分勝手な所もあり、身内に置き換えて考えると意識も変わってゆくように思います。
- 不都合を抱えている人が声を上げられるよう、相談窓口を設置したり、気軽にネットで投稿できたりすると、個人で感じている不条理が共有され、自分だけじゃないんだと思えるようになると思います。トップダウンで啓もう活動をするのも大切ですが、同時にボトムアップで現場で起きている問題を吸い上げることも大事だと思います。
- 社会性を保ちつつ個人主義を最大限発揮する生き方の選択。
- 上司には気を使い思っている事の言えない人が多い。役職関係無しに意見が言える社会になればと思う。  
小さい頃からの教育で、男の子だから、女の子だからとかは言わず、誰もが自分の道を選べるようになって欲しいです。
- 女性は出産したら、キャリアがバタッと止まってしまいます。半日勤務等がスムーズにできるような会社、社会になるよう皆の意識が変わって欲しいです。私も出産後仕事を続けられなかった一人です。  
子育て中は子どもが病気をすると母親が休まないといけなことが多い。子どもの旗当番等みても女性が多い。
- 病児保育の拡充や使い勝手がよくなること、子どもなら旗当番等は外注できるので、そういった細かいことから市政がリーダーシップをとってもらえると自然と男女が平等になっていくのではないかと思います。
- 男女問わず平等に働くために、犠牲が伴わない環境が必要。
- マイノリティは受け入れてもらって当然だ、という態度をとってはいけない。受け入れさせられる人達が自分らしく活躍できないのでは意味がない。
- 企業トップの意識改革、各家庭や教育現場での子供への意識改革。

お忙しい中、アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。

中でもQ6につきましては、性別による固定的な先入観のために、自分の希望とは違う選択をせざるを得なかった場面について多くのご回答をいただきました。男女共生推進課としては、誰もが自分らしく活躍できる社会を推進していくためには、性別によってあらゆる選択肢が制限されないことがない社会の実現が重要であると認識しており、今後もこうした意識の改善に向けて取組を進めていきたいと考えております。

皆さまからいただきました貴重なご意見を参考にさせていただき、本市の男女共同参画に関する施策を推進してまいります。

今後ともご理解とご協力いただきますようお願いいたします。